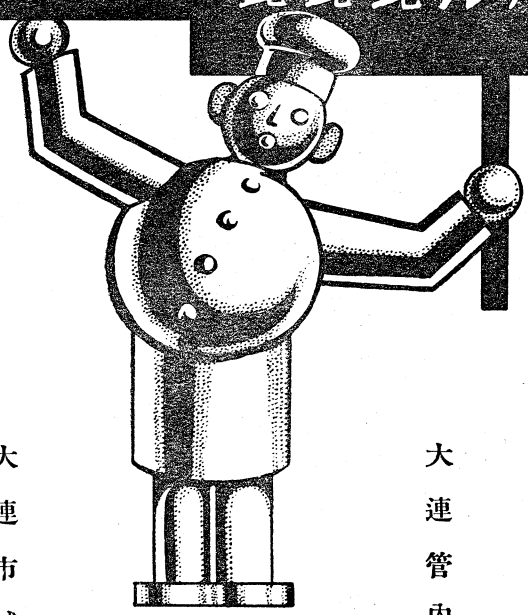
滿洲建築協會雜誌

建築部
6.9.2
受付

昭和六年八月十五日印刷納本
(毎月一回十五日發行)

第11卷·第8號

社團法人滿洲建築協會



・特許專賣 鐵筋煉瓦
・ホローターイル
・フエースブリック
・スクラッチタイル
・カツトタイル
・機械製煉瓦
・普通煉瓦
・硬質煉瓦

營口煉瓦製造所

大連管內西山會春柳屯一番地
大連工場
電話九〇九七番

大連管內周水屯會周家屯
周水工場

大連市越後町二八番地
大連出張所
電話三九〇五番

大連市財神街三番地
馬車配給所
電話七七五八番

滿洲建築協會雜誌　第十一卷 第八號

目次

口繪

關東廳遞信講習所（大連）
概觀
中央部詳細
各階平面圖
關東廳警察官練習所（旅順）
正面概觀
背面概觀
中央外部詳細
玄關詳細
各階平面圖

歐米新建築グラフ

米國ロスアンヂエルス、ハイ・ハト・レストラント……J. R. Davidson.…(1)
獨逸伯林に於ける米國式レストラント……R. E. Lederer.…(3)
巴里、バー・レストラン・シキト……建築家シャルル・シクリ…(4)
巴里、ピガユ劇場のバー……同…(4)
巴里、カジノ・シヤユ・レ・オーのバー……裝飾家マウリス・ヂユフレヌ…(4)
金屬と硝子とを應用したる新傾向の家具……(5)
マルセル・ブロイアー、コカリー、アドネ、ヂヨ・ブウルヂヨワー、エミユ・ギユイロ、ルネ・エルブスト、ル・コルビユヂエ、ピ・ヂヤンヌレ、ペルリアン、ルイ・ソニヨ、シヤルロツト・アリ・モデユ、ペレの諸氏

本文

滿洲佛教建築史概說……村田治郎…(1)
關東廳遞信講習所新築工事概要……(24)
關東廳警察官練習所新築工事概要……(24)
建築叢話（三）……伊藤清造…(25)

會報

會員移動、建築材料常設陳列所開設、湯本理事令弟の訃、會員近藤寅市氏の訃、內外建築雜誌閲覽所、交換雜誌
編輯後記……(目次裏)

——編輯後記——

□梅雨と土用の交錯が終つて弦月の下郊外叢邊露やうやく厚く、蟲の音夜毎に繁きは正に是れ涼秋の到來を物語るもの。さるにても昨今一入殘暑の烈しさを感じます。偏に各位の健康の上に祝福豐ならん事を祈り上げます。

□滿洲古建築の研究紹介は正に本協會の重大なる使命の一面として、本協會創立當時一般に期待せられたる處でありましたが、爰に篤學熱心村田編輯の如き士があつて累次極めて眞面目なる研究が本誌を通じて學界に公表されつゝあることは甚だ慶すべきことであります。本號亦同氏の寄稿を得て感謝の至りであります。

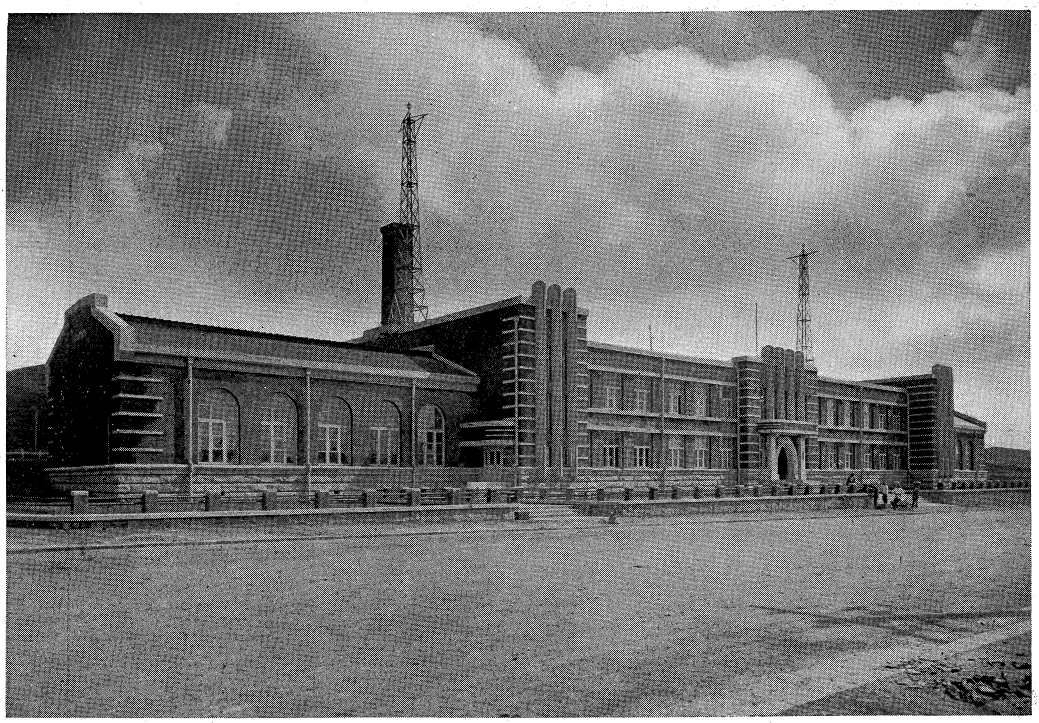
□誌友伊藤清造氏は其後再び小康に復し床上に筆紙に親しまれてある由。本號所掲の文孟夏三伏の机邊に一分爽涼の氣分を偲ばせるに足るものあつて、編輯子も甚だ快とするところであります。記して特に感謝の意を表する次第であります。

□東京洪洋社より發行せられてゐた建築新潮は主として經濟上の都合から無期休刊の宣言と共に當月其の終末號を送來りました。その卷頭「休刊の言葉」の一節に曰く「世間並に本誌の過去の功績といふやつを探して見ると、まア多少でも新人を紹介した點だ。今和次郎氏の考現學も恐らく本誌が最初の公開場であつたらう。藏田周忠、谷口吉郎、松成信夫、內田佐久郎、川喜田煉七郎の諸君は皆本誌によつてデビューしたのである」と。

創刊十一年號を重ぬること百餘、內地、鮮滿、臺夷、樺支に涉つて六百數十の會員を有し斯界の權威と學界のあらゆる施設と機關とに配本せらるゝ本誌に對し、眞摯なる投稿を試み、作品を公表する事は決して閑人の閑事視すべきことではない。雜誌の效果と投稿者の利得とは全然一致すべきものである。宜しく關心を深くしたいものである。

□本協會の理事として、特に編輯として屢々有用なる寄稿の勞をとられたる元滿鐵建築課機械係蘭科淺吉さんは這般の職制改革により待命となられ八月二十一日離滿東京に引揚げらるることゝなりました。本誌を通じて會員各位に宜敷くとの事。かゝる良編輯を失つたことは本誌の爲め眞に遺憾至極でありますがよんどころなき次第であります。茲に衷心より同氏の前途を祝福するものであります。

昭和六年八月二十二日　　I S I D A



關東廳遞信講習所　設計　關東廳土木課
施工　高岡久留工務所